

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	奈良工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械工学科	夜・通信		2	20	22	7	
	電気工学科	夜・通信		2	22	24	7	
	電子制御工学科	夜・通信		2	7	9	7	
	情報工学科	夜・通信		2	17	19	7	
	物質化学工学科	夜・通信		2	8	10	7	
	システム創成工学専攻	夜・通信		4	23	27	7	
	物質創成工学専攻	夜・通信		4	16	20	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

Web シラバス上で公開 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=28&lang=ja

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	奈良工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/release/independence#link01

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	国立高等専門学校 理事（2024年4月1日～2026年3月31日）	2026年4月1日～2029年3月31日	理事長
常勤	文部科学省官房参事官（命）文部科学戦略官	2026年4月1日～2026年10月15日	総務
非常勤	東京大学教授	2026年4月1日～2028年3月31日	ダイバーシティ
常勤	東北大学工学研究科長	2026年4月1日～2028年3月31日	研究・産学連携 茨城工業高等専門学校校長兼務
（備考） 理事長は2024年3月31日まで九州大学大学院総合理工学府長・研究院長			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	奈良工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画(シラバス)は教育指導及び点検評価活動の一環として、すべての授業科目についてWebシラバスシステムを用いて作成し、高専機構モデルコアカリキュラムに適合した内容としている。 記入内容は下記6項目とし、当該年度当初には閲覧できるようにしている。 1. 教科書 2. 到達目標 定期試験ごとの達成目標を具体的に記入 3. 評価(ルーブリック) それぞれの「到達目標」に対する「理想的な到達レベル(優)」、「標準的な到達レベル(良)」、「未到達レベル(不可)」の目安を記入 4. 教育方法等 学生が授業内容に興味を持てる工夫、授業のスタイルや特徴、関連科目や学生の視点に立って留意すべき点を記入 4年生以上の科目においては「自己学習」として、授業時間外に行うべき学習内容等も記入。履修条件のある科目等も明示。 5. 授業計画 定期試験を含め週ごとの授業内容・方法および到達目標を記入 6. 評価割合 評価項目ごとの評価割合を数値で記入 なおシラバスは、1月に作成依頼、3月に教務委員会及び専攻科委員会において策定し、4月授業開始前に公表する。	
授業計画書の公表方法	ホームページにて公表 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=28&lang=ja
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業計画（シラバス）には、評価項目を具体的かつ詳細に明示しており、各評価項目には評価に占める割合を数値(%)で記入した後、学生が定期試験や小テストなどの素点またはレポート提出状況等からおおよその成績を把握でき、かつ、学生が理解しやすいように具体的（授業での取り組み・積極性(発言の有無や回数)など）に呈示している。 最終成績の算出法および算出根拠となるデータを収める成績根拠資料を保管し、成績評価の項目ごとの数値割合に誤謬がなく成績一覧表との一貫性を徹底している。成績一覧表では、授業計画（シラバス）に示した評価割合に基づく最終成績の算出式および根拠となる項目ごとの素点を明示している。 各科目の成績は、本科については『奈良工業高等専門学校学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する規則』第6条に定めるとおり原則として100点法によって評価し、教務委員会、運営会議、教職員会議にて承認を受けている。	
3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 各科目の成績は、本科については『奈良工業高等専門学校学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する規則』第6条に定めるとおり、原則として100点法によって評価し、次の標語によって評定している。 「優」: 100～80点 「良」: 79～65点 「可」: 64～60点 「不可」: 59～0 なお、「不可」については、さらに「不可(A)」(59～40点)、「不可(B)」(39～0点)の区分を設けて取り扱っている。 進級及び卒業の認定においては、『奈良工業高等専門学校学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する規則』第10条に定める認定資料として、全科目の100点法による成績やその総平均点に基づくクラス内での席次等を記載した成績一覧表をクラスごとに作成し、教職員間で共有している。なお、成績一覧表は学年末だけでなく、前期中間・前期末・後期中間時点でも作成しており、年度途中の成績の状況等も教員間で共有している。 専攻科については、令和2年度から『奈良工業高等専門学校専攻科履修規程』第7条に定めるとおり、次の標語によって評定している。 「S」: 100～90点 「A」: 89～80点 「B」: 79～70点 「C」: 69～60点 「F」: 59～0	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	ホームページにて公表 https://www.nara-k.ac.jp/guide/uploads/07-01-narakosen-gakugyou.pdf https://www.nara-k.ac.jp/guide/uploads/07-38-narakosen-senkouka-risyukitei.pdf https://www.nara-k.ac.jp/education/curriculum/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本科においては、ディプロマポリシー、学則第 12 条及び昭和 46 年度に制定された『学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する規則』を公表、『学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する申合せ事項』を制定し、順次状況にあった改訂を加えている。

次に該当する者は、原則として進級又は卒業を認めない。

- (1) 不合格の科目がある者
- (2) 学年成績の総平均点が 60 点未満の者
- (3) 欠席日数が年間授業日数の 3 分の 1 を超える者
- (4) 特別教育活動の履習状況が著しく悪い者

ただし、不合格科目の全てが不可 (A) (59～40 点) であり、かつ、その累積が 5 科目 10 単位以内である場合、本科にあっては進級を認め、第 5 学年にあっては卒業を迫認定するための再試験の実施を認めることができる。

また、申合せ事項において各科目で設定された到達目標について、未到達レベル (不可) の学生が履修学生の 2 割未満となるように授業を設計・計画し、適切な課題や試験などを課すことを定めている。また、必要に応じて補講や学力補充試験を実施するなど、履修学生の到達レベルを向上させるための方策を講ずることに努めるよう定めている。

専攻科においては、学則第 37、38 条及び『奈良工業高等専門学校専攻科履修規程』を公表し、修了認定の条件を定めている。

専攻科に 2 年以上在学し所定の授業科目を履修し、62 単位以上を修得することとし教養専門基礎科目修得単位数 計 20 単位以上、専門科目修得単位数 計 42 単位以上としている。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	ホームページにて公表 https://www.nara-k.ac.jp/guide/uploads/07-01-narakosen-gakugyou.pdf https://www.nara-k.ac.jp/guide/uploads/07-38-narakosen-senkouka-risyukitei.pdf https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/
----------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	奈良工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
財産目録	
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jigyohoukoku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
監事による監査報告(書)	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jikotennkennhyouka.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和8年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/r7-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/5th-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:ホームページにて公表 https://www.nara-k.ac.jp/guide/open/self_inspection_report.html
--

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：ホームページにて公表

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/ninsyohyoka/>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/
（概要） （令和 6 年度以前入学者に適用） (1) 社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる、豊かな人間性を備えた技術者の育成 (2) 幅広い工学的知識を基礎に、実践能力を備えた技術者の育成 (3) コミュニケーション能力を備えた国際的に活躍できる技術者の育成 (4) 自主的・継続的に学習し、課題解決能力を備えた技術者の育成 （令和 7 年度以降入学者に適用） (1) 社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる、豊かな人間性を備えた技術者の育成【基礎力】 (2) 幅広い工学知識を基礎に、他者と意思疎通しながら課題解決に取り組み、社会に貢献できる技術者の育成【協働力】 (3) 技術者としての倫理観を持ち、社会の発展に貢献できる技術者の育成【社会貢献力】 (4) 専門分野の基礎知識及び実験・実習技術を身につけた技術者の育成【専門基礎力】 (5) 実験や研究を通じて、工学的な問題を設定でき、それを解決することができる技術者の育成【専門応用力】 さらに、学科ごとに[専門基礎力]及び[専門応用力]を以下のとおり定めています。 (4) 材料・加工、熱・流体、機械力学・計測制御および情報処理に関する専門能力ならびに実験・実習技術を身につけ、活用できる技術者の育成【専門基礎力】 (5) 実験や研究を通じて、設計・開発、その他機械工学の応用・関連分野において、安心・安全で豊かさの感じられる持続可能な社会を構築するための問題を設定でき、それを解決することができる技術者の育成【専門応用力】
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/
（概要） （令和 5 年度以前入学者に適用） 本校では、各学科の所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に卒業を認定します。 (1) 人文・社会・自然についての豊かな教養を持ち、自主的・継続的に学習ができる。 [基礎力] (2) 各専門学科の人材養成目的・教育目標に掲げる知識・技術・能力を有する。 [専門応用力] (3) 多様な個性や価値観を持つ他者と意思疎通し、同じ目的に向けて協働できる。 [協働力] (4) 技術者としての倫理観を持ち、責任ある行動をもって社会に貢献できる。 [社会貢献力] （令和 6 年度以降入学者に適用） 本校では、各学科の所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に卒業を認定します。

- (1) 人文・社会・自然・情報についての豊かな教養を持ち、自主的・継続的に学習ができる。〔基礎力〕
- (2) 多様な個性や価値観を持つ他者と意思疎通し、同じ目的に向けて協働できる。〔協働力〕
- (3) 技術者としての倫理観を持ち、責任ある行動でもって社会に貢献できる。〔社会貢献力〕
- (4) 材料・加工、熱・流体、機械力学・計測制御および情報処理に関する専門能力ならびに実験・実習技術を身につけ、活用できる。〔専門基礎力〕
- (5) 設計・開発、その他機械工学の応用・関連分野において、安心・安全で豊かさの感じられる持続可能な社会を構築するための課題を解決する技術者・研究者として活躍できる。〔専門応用力〕

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

（概要）

（令和6年度以前入学者に適用）

本校では、以下の方針でカリキュラムを編成します。（全学科共通）

- (1) 低学年では、一般教養科目を中心に専門の知識や技能の基礎が身につく授業科目を配置し、高学年では、専門の知識や技能を段階的に高め、応用力が身につく授業科目を配置し、学年進行に従い専門科目が多くなるくさび形に配置します。【編成方針1】
- (2) 国内外を問わず通用するコミュニケーション能力、実地的な社会貢献につながる課題発見能力および課題解決能力を育成するため、低学年から高学年までを通じて、実験・実習を系統的に配置し、それらの学習の総まとめとして最終学年に卒業研究を配置します。【編成方針2】
- (3) 低学年から高学年までを通じて、シラバスにおいて「ディプロマ・ポリシー」で定められた能力との対応関係やその修得方法および成績評価方法が説明され、学生が学習の過程で自身の達成度を把握でき、自主的・継続的な学習を促すよう工夫された授業科目を配置します。【実施方針】
- (4) 学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。【学修成果の評価】

さらに、学科ごとに「ディプロマ・ポリシー」に掲げた能力を育成するため、人材養成目的・教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。

- (1) 低学年では、機械工学における「ものづくり」の基礎が身につくように、実技系科目（製図、実習）、基礎専門科目（材料系、情報処理）と、自然科学系基礎科目、人文社会科目を配置し、講義と演習を組み合わせることにより、基礎学習能力を育むための機会を提供します。
- (2) 学年進行に伴って段階的に専門応用科目（力学系、設計系、計測制御系）を増やし、内容の積み重ね、つながりを意識した講義・実習により、専門応用力を育むための機会を提供します。
- (3) 5年間にわたって実習・学生実験を配置し、グループで実験・実習を行うことにより、協働的に課題に取り組む能力を育むための機会を提供します。
- (4) 高学年に新しい科学技術に対応するための講義、卒業研究を配置し、学習内容を体現できる実践力を養うことにより、社会に貢献できる能力を育むための機会を提供します。

（令和7年度以降入学者に適用）

本校では、全学科共通の以下の方針でカリキュラムを編成します。

- (a) 低学年では、一般教養科目を中心に専門の知識や技能の基礎が身につく授業科目を配置し、高学年では、専門の知識や技能を段階的に高め、応用力が身につく授業科目

を配置し、学年進行に従い専門科目が多くなるくさび形に配置します。[編成方針1] (b) 国内外を問わず通用するコミュニケーション能力、実際の社会貢献につながる課題発見能力および課題解決能力を育成するため、低学年から高学年までを通じて、実験・実習を系統的に配置し、それらの学習の総まとめとして最終学年に卒業研究を配置します。[編成方針2] (c) 低学年から高学年までを通じて、シラバスにおいて「ディプロマ・ポリシー」で定められた能力との対応関係やその修得方法および成績評価方法が説明され、学生が学習の過程で自身の達成度を把握でき、自主的・継続的な学習を促すよう工夫された授業科目を配置します。[実施方針] (d) 学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。[学修成果の評価] さらに、学科ごとに「ディプロマ・ポリシー」に掲げた能力を育成するため、学習・教育目標および人材養成目的に沿って教育課程を編成します。 (1) 幅広く人文社会・自然・情報についての科目を配置することにより、豊かな教養を育むための機会を提供します。[基礎力] (2) 国際社会で通用するコミュニケーション能力、実際の社会貢献につながる課題発見能力および課題解決能力を育成するため、5年間にわたって実習・学生実験を配置し、グループで実験・実習を行うことにより、協働的に課題に取り組む能力を育むための機会を提供します。[協働力] (3) 高学年に新しい科学技術に対応するための講義、卒業研究を配置し、学習内容を体現できる実践力を養うことにより、社会に貢献できる能力を育むための機会を提供します。[社会貢献力] (4) 低学年では、機械工学における「ものづくり」の基礎が身につくように、実技系科目（製図、実習）、基礎専門科目（材料系、情報処理）と、自然科学系基礎科目、人文社会科目を配置し、講義と演習を組み合わせることにより、基礎学習能力を育むための機会を提供します。[専門基礎力] (5) 学年進行に伴って段階的に専門応用科目（力学系、設計系、計測制御系）を増やし、内容の積み重ね、つながりを意識した講義・実習により、専門応用力を育むための機会を提供します。[専門応用力]	入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/
(概要) 本校は、幅広い工学的知識・技術を身につけ、豊かな人間性を備えた技術者の養成を行うことを使命としています。産業のグローバル化に対応して、国際的視野や国際コミュニケーション力を持ち、課題を発見し解決できる創造的技術者の育成を目指すため、以下に掲げる意欲および能力を有する人を受け入れます。 1. 求める学生像 【本科】 (1) 技術者や研究者になって、社会の役に立ちたい人 (2) 基礎的な学力を身に付けていて、自ら進んで学べる人 (3) 科学や技術に関心があり、仲間と協力して新しいものを創造したい人 (4) 他者への思いやりがあり、責任感を持って誠実に行動できる人 【4年次編入学】 (1) 技術者や理工系の研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人 (2) 工学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、自ら進んで学習できる人 (3) 科学技術の分野に関心を持ち、工夫や協働を通して新しいものを創造したい人 (4) 倫理観や協調性を持ち、多様な個性や価値観を尊重できる人	

2. 入学者選抜の方針

推薦選抜「適性検査枠」

技術者や研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人で、総合的な基礎学力があり、とくに数学・理科が得意な人の入学を期待し、調査書、推薦書、適性検査、面接の総合評価によって選抜します。

推薦選抜「女性エンジニアリーダー養成枠」

技術者や研究者になるという強い意志を持ち、率先して社会の発展に貢献したい人で、総合的で高い基礎学力がある人の入学を期待し、調査書、推薦書、面接の総合評価によって選抜します。

学力選抜

技術者や研究者として社会で活躍したい人で、中学の学習内容を正しく理解していて、実技科目にもしっかりと取り組んだ人の入学を期待し、学力検査、調査書の総合評価によって選抜します。

編入学試験

技術者や理工系の研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人で、工学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、自ら進んで学習できる人の入学を期待し、学力検査、調査書、面接の総合評価によって選抜します。

学部等名 電気工学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

（概要）

（令和6年度以前入学者に適用）

- （1）社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる、豊かな人間性を備えた技術者の育成
- （2）幅広い工学的知識を基礎に、実践能力を備えた技術者の育成
- （3）コミュニケーション能力を備えた国際的に活躍できる技術者の育成
- （4）自主的・継続的に学習し、課題解決能力を備えた技術者の育成

（令和7年度以降入学者に適用）

- （1）社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる、豊かな人間性を備えた技術者の育成【基礎力】
- （2）幅広い工学知識を基礎に、他者と意思疎通しながら課題解決に取り組み、社会に貢献できる技術者の育成【協働力】
- （3）技術者としての倫理観を持ち、社会の発展に貢献できる技術者の育成【社会貢献力】
- （4）専門分野の基礎知識及び実験・実習技術を身につけた技術者の育成【専門基礎力】
- （5）実験や研究を通じて、工学的な問題を設定でき、それを解決することができる技術者の育成【専門応用力】

さらに、学科ごとに[専門基礎力]及び[専門応用力]を以下のとおり定めています。

- （4）電気電子、エネルギー、情報通信の各分野における基礎力を備えた技術者の育成【専門基礎力】
- （5）電気電子、エネルギー、情報通信や他分野の技術を活用し、地球環境や幅広い産業分野の社会課題を解決できる技術者の育成【専門応用力】

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

(概要) (令和5年度以前入学者に適用) 本校では、各学科の所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に卒業を認定します。 (1) 人文・社会・自然についての豊かな教養を持ち、自主的・継続的に学習ができる。 [基礎力] (2) 各専門学科の人材養成目的・教育目標に掲げる知識・技術・能力を有する。 [専門応用力] (3) 多様な個性や価値観を持つ他者と意思疎通し、同じ目的に向けて協働できる。 [協働力] (4) 技術者としての倫理観を持ち、責任ある行動でもって社会に貢献できる。 [社会貢献力] (令和6年度以降入学者に適用) 本校では、各学科の所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に卒業を認定します。 (1) 人文・社会・自然・情報についての豊かな教養を持ち、自主的・継続的に学習ができる。[基礎力] (2) 多様な個性や価値観を持つ他者と意思疎通し、同じ目的に向けて協働できる。 [協働力] (3) 技術者としての倫理観を持ち、責任ある行動でもって社会に貢献できる。 [社会貢献力] (4) 電気電子回路、電気電子材料、電力・制御工学、情報・通信工学に関する専門能力ならびに実験技術を身につけ、活用できる。[専門基礎力] (5) 電気電子分野の知識に加えて、広い視野と柔軟な発想を有し、地球環境や幅広い産業分野における課題を解決する技術者・研究者として活躍できる。[専門応用力]
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/
(概要) (令和6年度以前入学者に適用) 本校では、以下の方針でカリキュラムを編成します。（全学科共通） (1) 低学年では、一般教養科目を中心に専門の知識や技能の基礎が身につく授業科目を配置し、高学年では、専門の知識や技能を段階的に高め、応用力が身につく授業科目を配置し、学年進行に従い専門科目が多くなるくさび形に配置します。【編成方針1】 (2) 国内外を問わず通用するコミュニケーション能力、実証的な社会貢献につながる課題発見能力および課題解決能力を育成するため、低学年から高学年までを通じて、実験・実習を系統的に配置し、それらの学習の総まとめとして最終学年に卒業研究を配置します。【編成方針2】 (3) 低学年から高学年までを通じて、シラバスにおいて「ディプロマ・ポリシー」で定められた能力との対応関係やその修得方法および成績評価方法が説明され、学生が学習の過程で自身の達成度を把握でき、自主的・継続的な学習を促すよう工夫された授業科目を配置します。【実施方針】 (4) 学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。【学修成果の評価】 さらに、学科ごとに「ディプロマ・ポリシー」に掲げた能力を育成するため、人材養成目的・教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。 (1) 低学年に専門基礎科目と専門演習科目、自然科学系基礎科目、人文社会科目を有機的に配置し、科目の連携による教育で、学びの反復と段階的な成長を促すとともに、

グループワークにより、興味関心意欲を高めることで、基礎学習能力を育むための機会を提供します。

- (2) 実社会での応用を題材にした教材を活用した講義科目や、実際にものづくりを行う実習科目配置し、実社会での応用例や技術の活用方法を学ばせることで、専門応用力を育むための機会を提供します。
- (3) 実習や実験科目や、課題解決型の講義科目を配置し、グループでの討議、作業、考察などを行わせることにより、協働的に課題に取り組む能力を育むための機会を提供します。
- (4) 技術者の役割について考える講義や、学んできた知識を問題解決に応用する卒業研究を配置し、グループ討議などにより学生相互に学び合う学習や、技術を社会実装に応用することを考察させることにより、社会に貢献できる能力を育むための機会を提供します。

(令和7年度以降入学者に適用)

本校では、全学科共通の以下の方針でカリキュラムを編成します。

- (a) 低学年では、一般教養科目を中心に専門の知識や技能の基礎が身につく授業科目を配置し、高学年では、専門の知識や技能を段階的に高め、応用力が身につく授業科目を配置し、学年進行に従い専門科目が多くなるくさび形に配置します。[編成方針1]
- (b) 国内外を問わず通用するコミュニケーション能力、実際的な社会貢献につながる課題発見能力および課題解決能力を育成するため、低学年から高学年までを通じて、実験・実習を系統的に配置し、それらの学習の総まとめとして最終学年に卒業研究を配置します。[編成方針2]
- (c) 低学年から高学年までを通じて、シラバスにおいて「ディプロマ・ポリシー」で定められた能力との対応関係やその修得方法および成績評価方法が説明され、学生が学習の過程で自身の達成度を把握でき、自主的・継続的な学習を促すよう工夫された授業科目を配置します。[実施方針]
- (d) 学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。[学修成果の評価]

さらに、学科ごとに「ディプロマ・ポリシー」に掲げた能力を育成するため、学習・教育目標および人材養成目的に沿って教育課程を編成します。

- (1) 幅広く人文社会・自然・情報についての科目を配置することにより、豊かな教養を育むための機会を提供します。[基礎力]
- (2) 国際社会で通用するコミュニケーション能力、実際的な社会貢献につながる課題発見能力および課題解決能力を育成するため、実習や実験科目や、課題解決型の講義科目を配置し、グループでの討議、作業、考察などを行わせることにより、協働的に課題に取り組む能力を育むための機会を提供します。[協働力]
- (3) 技術者の役割について考える講義や、学んできた知識を問題解決に応用する卒業研究を配置し、グループ討議などにより学生相互に学び合う学習や、技術を社会実装に応用することを考察させることにより、社会に貢献できる能力を育むための機会を提供します。[社会貢献力]
- (4) 低学年に専門基礎科目と専門演習科目、自然科学系基礎科目、人文社会科目を有機的に配置し、科目の連携による教育で、学びの反復と段階的な成長を促すとともに、グループワークにより、興味関心意欲を高めることで、基礎学習能力を育むための機会を提供します。[専門基礎力]
- (5) 実社会での応用を題材にした教材を活用した講義科目や、実際にものづくりを行う実習科目配置し、実社会での応用例や技術の活用方法を学ばせることで、専門応用力を育むための機会を提供します。[専門応用力]

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

(概要)

本校は、幅広い工学的知識・技術を身につけ、豊かな人間性を備えた技術者の養成を行うことを使命としています。産業のグローバル化に対応して、国際的視野や国際コミュニケーション力を持ち、課題を発見し解決できる創造的技術者の育成を目指すため、以下に掲げる意欲および能力を有する人を受け入れます。

1. 求める学生像

【本科】

- (1) 技術者や研究者になって、社会の役に立ちたい人
- (2) 基礎的な学力を身に付けていて、自ら進んで学べる人
- (3) 科学や技術に関心があり、仲間と協力して新しいものを創造したい人
- (4) 他者への思いやりがあり、責任感を持って誠実に行動できる人

【4年次編入学】

- (1) 技術者や理工系の研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人
- (2) 工学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、自ら進んで学習できる人
- (3) 科学技術の分野に関心を持ち、工夫や協働を通して新しいものを創造したい人
- (4) 倫理観や協調性を持ち、多様な個性や価値観を尊重できる人

2. 入学者選抜の方針

推薦選抜「適性検査枠」

技術者や研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人で、総合的な基礎学力があり、とくに数学・理科が得意な人の入学を期待し、調査書、推薦書、適性検査、面接の総合評価によって選抜します。

推薦選抜「女性エンジニアリーダー養成枠」

技術者や研究者になるという強い意志を持ち、率先して社会の発展に貢献したい人で、総合的で高い基礎学力がある人の入学を期待し、調査書、推薦書、面接の総合評価によって選抜します。

学力選抜

技術者や研究者として社会で活躍したい人で、中学の学習内容を正しく理解していて、実技科目にもしっかりと取り組んだ人の入学を期待し、学力検査、調査書の総合評価によって選抜します。

編入学試験

技術者や理工系の研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人で、工学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、自ら進んで学習できる人の入学を期待し、学力検査、調査書、面接の総合評価によって選抜します。

学部等名 電子制御工学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

(概要)

(令和6年度以前入学者に適用)

- (1) 社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる、豊かな人間性を備えた技術者の育成
- (2) 幅広い工学的知識を基礎に、実践能力を備えた技術者の育成
- (3) コミュニケーション能力を備えた国際的に活躍できる技術者の育成
- (4) 自主的・継続的に学習し、課題解決能力を備えた技術者の育成

(令和7年度以降入学者に適用)

- (1) 社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる、豊かな人間性を備えた技術者の育成【基礎力】
- (2) 幅広い工学知識を基礎に、他者と意思疎通しながら課題解決に取り組み、社会に貢

献できる技術者の育成【協働力】 (3) 技術者としての倫理観を持ち、社会の発展に貢献できる技術者の育成【社会貢献力】 (4) 専門分野の基礎知識及び実験・実習技術を身につけた技術者の育成【専門基礎力】 (5) 実験や研究を通じて、工学的な問題を設定でき、それを解決することができる技術者の育成【専門応用力】 さらに、学科ごとに[専門基礎力]及び[専門応用力]を以下のとおり定めています。 (4) 機械工学，電気電子工学，情報工学，計測制御工学とそれらを横断するシステム工学に関する専門能力ならびに実験技術を身につけ，活用できる技術者の育成 [専門基礎力] (5) 新しいシステムの創造や複雑なシステムを解析し，システムに関わる問題を解決する技術者の育成 [専門応用力]
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/ （概要） （令和5年度以前入学者に適用） 本校では，各学科の所定の単位を修得し，以下の能力を身につけた学生に卒業を認定します。 (1) 人文・社会・自然についての豊かな教養を持ち，自主的・継続的に学習ができる。 [基礎力] (2) 各専門学科の人材養成目的・教育目標に掲げる知識・技術・能力を有する。 [専門応用力] (3) 多様な個性や価値観を持つ他者と意思疎通し，同じ目的に向けて協働できる。 [協働力] (4) 技術者としての倫理観を持ち，責任ある行動でもって社会に貢献できる。 [社会貢献力] （令和6年度以降入学者に適用） 本校では，各学科の所定の単位を修得し，以下の能力を身につけた学生に卒業を認定します。 (1) 人文・社会・自然・情報についての豊かな教養を持ち，自主的・継続的に学習ができる。 [基礎力] (2) 多様な個性や価値観を持つ他者と意思疎通し，同じ目的に向けて協働できる。 [協働力] (3) 技術者としての倫理観を持ち，責任ある行動でもって社会に貢献できる。 [社会貢献力] (4) 機械工学，電気電子工学，情報工学，計測制御工学とそれらを横断するシステム工学に関する専門能力ならびに実験技術を身につけ，活用できる。 [専門基礎力] (5) 新しいシステムの創造や複雑なシステムを解析し，システムに関わる問題を解決する技術者・研究者として活躍できる。 [専門応用力]
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/ （概要） （令和6年度以前入学者に適用） 本校では、以下の方針でカリキュラムを編成します。（全学科共通） (1) 低学年では、一般教養科目を中心に専門の知識や技能の基礎が身につく授業科目を配置し、高学年では、専門の知識や技能を段階的に高め、応用力が身につく授業科目を配置し、学年進行に従い専門科目が多くなるくさび形に配置します。【編成方針1】 (2) 国内外を問わず通用するコミュニケーション能力、実社会的な社会貢献につながる課題発見能力および課題解決能力を育成するため、低学年から高学年までを通じて、実

験・実習を系統的に配置し、それらの学習の総まとめとして最終学年に卒業研究を配置します。【編成方針2】

- (3) 低学年から高学年までを通じて、シラバスにおいて「ディプロマ・ポリシー」で定められた能力との対応関係やその修得方法および成績評価方法が説明され、学生が学習の過程で自身の達成度を把握でき、自主的・継続的な学習を促すよう工夫された授業科目を配置します。【実施方針】
- (4) 学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。【学修成果の評価】

さらに、学科ごとに「ディプロマ・ポリシー」に掲げた能力を育成するため、人材養成目的・教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。

- (1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、計測制御工学に関わる知識の融合による複雑なシステムを構築する基礎能力を育成するために、低学年では自然科学系基礎科目、人文社会系科目を配置し、学年進行に伴い、機械系、電気電子工学系、情報系、計測制御系の科目を配置します。講義と演習を組み合わせることにより、基礎学習能力を育むための機会を提供します。
- (2) 機械工学、電気電子工学、情報工学、計測制御工学の4つの専門分野の知識および技術を総合的に身につけ、それらを応用した“ものづくり”を具体的に実現するために、実験、実習系科目を系統的に配置し、専門応用力を育むための機会を提供します。
- (3) 課題解決能力、プロジェクトマネジメント能力、チームワーク力を身につけるために、課題解決型実験、システム設計製作、を配置し、協働的に課題に取り組む能力を育むための機会を提供します。
- (4) 各専門分野に関わる知識を融合させ、新しいシステムを構築する能力を身につけるために高学年にシステム工学、応用システム設計、卒業研究を配置し、学習内容を体現できる実践力を養うことにより、社会に貢献できる能力を育むための機会を提供します。

(令和7年度以降入学者に適用)

本校では、全学科共通の以下の方針でカリキュラムを編成します。

- (a) 低学年では、一般教養科目を中心に専門の知識や技能の基礎が身につく授業科目を配置し、高学年では、専門の知識や技能を段階的に高め、応用力が身につく授業科目を配置し、学年進行に従い専門科目が多くなるくさび形に配置します。【編成方針1】
- (b) 国内外を問わず通用するコミュニケーション能力、実質的な社会貢献につながる課題発見能力および課題解決能力を育成するため、低学年から高学年までを通じて、実験・実習を系統的に配置し、それらの学習の総まとめとして最終学年に卒業研究を配置します。【編成方針2】
- (c) 低学年から高学年までを通じて、シラバスにおいて「ディプロマ・ポリシー」で定められた能力との対応関係やその修得方法および成績評価方法が説明され、学生が学習の過程で自身の達成度を把握でき、自主的・継続的な学習を促すよう工夫された授業科目を配置します。【実施方針】
- (d) 学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。【学修成果の評価】

さらに、学科ごとに「ディプロマ・ポリシー」に掲げた能力を育成するため、学習・教育目標および人材養成目的に沿って教育課程を編成します。

- (1) 幅広く人文社会・自然・情報についての科目を配置することにより、豊かな教養を育むための機会を提供します。【基礎力】

- (2) 国際社会で通用するコミュニケーション能力、課題解決能力、プロジェクトマネジメント能力、チームワーク力を身につけるために、課題解決型実験、システム設計製作を配置し、協働的に課題に取り組む能力を育むための機会を提供します。[協働能力]
- (3) 各専門分野に関わる知識を融合させ、新しいシステムを構築する能力を身につけるために高学年にシステム工学、応用システム設計、卒業研究を配置し、学習内容を体験できる実践力を養うことにより、社会に貢献できる能力を育むための機会を提供します。[社会貢献力]
- (4) 機械工学、電気電子工学、情報工学、計測制御工学に関わる知識の融合による複雑なシステムを構築する基礎能力を育成するために、低学年では自然科学系基礎科目、人文社会系科目を配置し、学年進行に伴い、機械系、電気電子工学系、情報系、計測制御系の科目を配置します。講義と演習を組み合わせることにより、基礎学習能力を育むための機会を提供します。[専門基礎力]
- (5) 機械工学、電気電子工学、情報工学、計測制御工学の4つの専門分野の知識および技術を総合的に身につけ、それらを応用した「ものづくり」を具体的に実現するために、実験、実習系科目を系統的に配置し、専門応用力を育むための機会を提供します。[専門応用力]

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

（概要）

本校は、幅広い工学的知識・技術を身につけ、豊かな人間性を備えた技術者の養成を行うことを使命としています。産業のグローバル化に対応して、国際的視野や国際コミュニケーション力を持ち、課題を発見し解決できる創造的技術者の育成を目指すため、以下に掲げる意欲および能力を有する人を受け入れます。

1. 求める学生像

【本科】

- (1) 技術者や研究者になって、社会の役に立ちたい人
- (2) 基礎的な学力を身に付けていて、自ら進んで学べる人
- (3) 科学や技術に関心があり、仲間と協力して新しいものを創造したい人
- (4) 他者への思いやりがあり、責任感を持って誠実に行動できる人

【4年次編入学】

- (1) 技術者や理工系の研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人
- (2) 工学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、自ら進んで学習できる人
- (3) 科学技術の分野に関心を持ち、工夫や協働を通して新しいものを創造したい人
- (4) 倫理観や協調性を持ち、多様な個性や価値観を尊重できる人

2. 入学者選抜の方針

推薦選抜「適性検査枠」

技術者や研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人で、総合的な基礎学力があり、とくに数学・理科が得意な人の入学を期待し、調査書、推薦書、適性検査、面接の総合評価によって選抜します。

推薦選抜「女性エンジニアリーダー養成枠」

技術者や研究者になるという強い意志を持ち、率先して社会の発展に貢献したい人で、総合的で高い基礎学力がある人の入学を期待し、調査書、推薦書、面接の総合評価によって選抜します。

学力選抜

技術者や研究者として社会で活躍したい人で、中学の学習内容を正しく理解していて、実技科目にもしっかりと取り組んだ人の入学を期待し、学力検査、調査書の総合評価によって選抜します。

編入学試験

技術者や理工系の研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人で、工学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、自ら進んで学習できる人の入学を期待し、

学力検査、調査書、面接の総合評価によって選抜します。

学部等名 情報工学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

（概要）

（令和6年度以前入学者に適用）

- （1）社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる、豊かな人間性を備えた技術者の育成
- （2）幅広い工学的知識を基礎に、実践能力を備えた技術者の育成
- （3）コミュニケーション能力を備えた国際的に活躍できる技術者の育成
- （4）自主的・継続的に学習し、課題解決能力を備えた技術者の育成

（令和7年度以降入学者に適用）

- （1）社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる、豊かな人間性を備えた技術者の育成【基礎力】
- （2）幅広い工学知識を基礎に、他者と意思疎通しながら課題解決に取り組み、社会に貢献できる技術者の育成【協働力】
- （3）技術者としての倫理観を持ち、社会の発展に貢献できる技術者の育成【社会貢献力】
- （4）専門分野の基礎知識及び実験・実習技術を身につけた技術者の育成【専門基礎力】
- （5）実験や研究を通じて、工学的な問題を設定でき、それを解決することができる技術者の育成【専門応用力】

さらに、学科ごとに[専門基礎力]及び[専門応用力]を以下のとおり定めています。

- （4）ソフトウェア・ハードウェア・ネットワーク・情報セキュリティの基礎知識及び実験・実習技術を身につけた技術者の育成 [専門基礎力]
- （5）情報技術、コンピュータ、ネットワークおよびセキュリティの問題を設定でき、それを解決することができる技術者の育成 [専門応用力]

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

（概要）

（令和5年度以前入学者に適用）

本校では、各学科の所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に卒業を認定します。

- （1）人文・社会・自然についての豊かな教養を持ち、自主的・継続的に学習ができる。
[基礎力]
- （2）各専門学科の人材養成目的・教育目標に掲げる知識・技術・能力を有する。
[専門応用力]
- （3）多様な個性や価値観を持つ他者と意思疎通し、同じ目的に向けて協働できる。
[協働力]
- （4）技術者としての倫理観を持ち、責任ある行動をもって社会に貢献できる。
[社会貢献力]

（令和6年度以降入学者に適用）

本校では、各学科の所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に卒業を認定します。

- (1) 人文・社会・自然・情報についての豊かな教養を持ち、自主的・継続的に学習ができる。〔基礎力〕
- (2) 多様な個性や価値観を持つ他者と意思疎通し、同じ目的に向けて協働できる。〔協働力〕
- (3) 技術者としての倫理観を持ち、責任ある行動でもって社会に貢献できる。〔社会貢献力〕
- (4) ソフトウェア・ハードウェア・ネットワーク・情報セキュリティに関する専門能力ならびに実験技術を身につけ、活用できる。〔専門基礎力〕
- (5) 情報技術、コンピュータ、ネットワークおよびセキュリティの課題を解決する技術者・研究者として活躍できる。〔専門応用力〕

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

（概要）

（令和6年度以前入学者に適用）

本校では、以下の方針でカリキュラムを編成します。（全学科共通）

- (1) 低学年では、一般教養科目を中心に専門の知識や技能の基礎が身につく授業科目を配置し、高学年では、専門の知識や技能を段階的に高め、応用力が身につく授業科目を配置し、学年進行に従い専門科目が多くなるくさび形に配置します。【編成方針1】
- (2) 国内外を問わず通用するコミュニケーション能力、実地的な社会貢献につながる課題発見能力および課題解決能力を育成するため、低学年から高学年までを通じて、実験・実習を系統的に配置し、それらの学習の総まとめとして最終学年に卒業研究を配置します。【編成方針2】
- (3) 低学年から高学年までを通じて、シラバスにおいて「ディプロマ・ポリシー」で定められた能力との対応関係やその修得方法および成績評価方法が説明され、学生が学習の過程で自身の達成度を把握でき、自主的・継続的な学習を促すよう工夫された授業科目を配置します。【実施方針】
- (4) 学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。【学修成果の評価】

さらに、学科ごとに「ディプロマ・ポリシー」に掲げた能力を育成するため、人材養成目的・教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。

- (1) 低学年に、人文社会系科目と自然科学系基礎科目を配置し、更に情報工学に関する基礎理論を身につけさせるため、IT系、ソフトウェア系、ハードウェア系、情報理論系の講義科目を配置し、講義と演習を組み合わせることにより、基礎学習能力を育むための機会を提供します。
- (2) 4つの分野「ソフトウェア」「ハードウェア」「情報ネットワーク」「情報セキュリティ」の専門科目を楔形に配置し、内容の積み重ね、つながりを意識した講義・演習により専門応用力を育むための機会を提供します。
- (3) 各学年に応じて実験・演習・アクティブラーニングを配置し、個人・グループで実験・演習を行うことにより、協働的に課題に取り組む能力を育むための機会を提供します。
- (4) 高学年に新しい科学技術に対応することができる応用力を高めるために、4つの分野の講義、実験・演習と卒業研究を配置し、学習内容を体現できる実践力を養うことにより、社会に貢献できる能力を育むための機会を提供します。

（令和7年度以降入学者に適用）

本校では、全学科共通の以下の方針でカリキュラムを編成します。

- (a) 低学年では、一般教養科目を中心に専門の知識や技能の基礎が身につく授業科目を配置し、高学年では、専門の知識や技能を段階的に高め、応用力が身につく授業科目を配置し、学年進行に従い専門科目が多くなるくさび形に配置します。[編成方針1]
- (b) 国内外を問わず通用するコミュニケーション能力、実質的な社会貢献につながる課題発見能力および課題解決能力を育成するため、低学年から高学年までを通じて、実験・実習を系統的に配置し、それらの学習の総まとめとして最終学年に卒業研究を配置します。[編成方針2]
- (c) 低学年から高学年までを通じて、シラバスにおいて「ディプロマ・ポリシー」で定められた能力との対応関係やその修得方法および成績評価方法が説明され、学生が学習の過程で自身の達成度を把握でき、自主的・継続的な学習を促すよう工夫された授業科目を配置します。[実施方針]
- (d) 学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。[学修成果の評価]

さらに、学科ごとに「ディプロマ・ポリシー」に掲げた能力を育成するため、学習・教育目標および人材養成目的に沿って教育課程を編成します。

- (1) 幅広く人文社会・自然・情報についての科目を配置することにより、豊かな教養を育むための機会を提供します。[基礎力]
- (2) 国際社会で通用するコミュニケーション能力、実質的な社会貢献につながる課題発見能力および課題解決能力を育成するため、各学年に応じて実験・演習・アクティブラーニングを配置し、個人・グループで実験・演習を行うことにより、協働的に課題に取り組む能力を育むための機会を提供します。[協働力]
- (3) 高学年に新しい科学技術に対応することができる応用力を高めるために、4つの分野の講義、実験・演習と卒業研究を配置し、学習内容を体現できる実践力を養うことにより、社会に貢献できる能力を育むための機会を提供します。[社会貢献力]
- (4) 低学年に、人文社会系科目と自然科学系基礎科目を配置し、更に情報工学に関する基礎理論を身につけさせるため、IT系、ソフトウェア系、ハードウェア系、情報理論系の講義科目を配置し、講義と演習を組み合わせることにより、基礎学習能力を育むための機会を提供します。[専門基礎力]
- (5) 4つの分野「ソフトウェア」、「ハードウェア」、「情報ネットワーク」、「情報セキュリティ」の専門科目を楔形に配置し、内容の積み重ね、つながりを意識した講義・演習により専門応用力を育むための機会を提供します。[専門応用力]

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

(概要)

本校は、幅広い工学的知識・技術を身につけ、豊かな人間性を備えた技術者の養成を行うことを使命としています。産業のグローバル化に対応して、国際的視野や国際コミュニケーション力をもち、課題を発見し解決できる創造的技術者の育成を目指すため、以下に掲げる意欲および能力を有する人を受け入れます。

1. 求める学生像

【本科】

- (1) 技術者や研究者になって、社会の役に立ちたい人
- (2) 基礎的な学力を身に付けていて、自ら進んで学べる人
- (3) 科学や技術に関心があり、仲間と協力して新しいものを創造したい人
- (4) 他者への思いやりがあり、責任感を持って誠実に行動できる人

【4年次編入学】

- (1) 技術者や理工系の研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人
- (2) 工学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、自ら進んで学習できる人
- (3) 科学技術の分野に関心を持ち、工夫や協働を通して新しいものを創造したい人

(4) 倫理観や協調性を持ち、多様な個性や価値観を尊重できる人 2. 入学者選抜の方針 推薦選抜「適性検査枠」 技術者や研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人で、総合的な基礎学力があり、とくに数学・理科が得意な人の入学を期待し、調査書、推薦書、適性検査、面接の総合評価によって選抜します。 推薦選抜「女性エンジニアリーダー養成枠」 技術者や研究者になるという強い意志を持ち、率先して社会の発展に貢献したい人で、総合的で高い基礎学力がある人の入学を期待し、調査書、推薦書、面接の総合評価によって選抜します。 学力選抜 技術者や研究者として社会で活躍したい人で、中学の学習内容を正しく理解していて、実技科目にもしっかりと取り組んだ人の入学を期待し、学力検査、調査書の総合評価によって選抜します。 編入学試験 技術者や理工系の研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人で、工学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、自ら進んで学習できる人の入学を期待し、学力検査、調査書、面接の総合評価によって選抜します。

学部等名 物質化学工学科
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/ (概要) (令和6年度以前入学者に適用) (1) 社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる、豊かな人間性を備えた技術者の育成 (2) 幅広い工学的知識を基礎に、実践能力を備えた技術者の育成 (3) コミュニケーション能力を備えた国際的に活躍できる技術者の育成 (4) 自主的・継続的に学習し、課題解決能力を備えた技術者の育成 (令和7年度以降入学者に適用) (1) 社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる、豊かな人間性を備えた技術者の育成【基礎力】 (2) 幅広い工学知識を基礎に、他者と意思疎通しながら課題解決に取り組み、社会に貢献できる技術者の育成【協働力】 (3) 技術者としての倫理観を持ち、社会の発展に貢献できる技術者の育成【社会貢献力】 (4) 専門分野の基礎知識及び実験・実習技術を身につけた技術者の育成【専門基礎力】 (5) 実験や研究を通じて、工学的な問題を設定でき、それを解決することができる技術者の育成【専門応用力】 さらに、学科ごとに[専門基礎力]及び[専門応用力]を以下のとおり定めています。 (4) 分析化学，無機化学，物理化学，有機化学，生物化学，化学工学の基礎知識及び実験・実習技術を身につけた技術者の育成 [専門基礎力] (5) 実験や研究を通じて、バイオ，エネルギー，新素材，環境等の先端科学技術の問題を設定でき，それを解決することができる技術者の育成 [専門応用力] 卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/

(概要) (令和5年度以前入学者に適用) 本校では、各学科の所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に卒業を認定します。 (1) 人文・社会・自然についての豊かな教養を持ち、自主的・継続的に学習ができる。 [基礎力] (2) 各専門学科の人材養成目的・教育目標に掲げる知識・技術・能力を有する。 [専門応用力] (3) 多様な個性や価値観を持つ他者と意思疎通し、同じ目的に向けて協働できる。 [協働力] (4) 技術者としての倫理観を持ち、責任ある行動でもって社会に貢献できる。 [社会貢献力] (令和6年度以降入学者に適用) 本校では、各学科の所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に卒業を認定します。 (1) 人文・社会・自然・情報についての豊かな教養を持ち、自主的・継続的に学習ができる。 [基礎力] (2) 多様な個性や価値観を持つ他者と意思疎通し、同じ目的に向けて協働できる。 [協働力] (3) 技術者としての倫理観を持ち、責任ある行動でもって社会に貢献できる。 [社会貢献力] (4) 応用化学、生物化学、化学工学に関する専門能力ならびに実験技術を身につけ、活用できる。 [専門基礎力] (5) バイオ、エネルギー、新素材、環境等の先端科学技術の課題を解決する技術者・研究者として活躍できる。 [専門応用力]
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/
(概要) (令和6年度以前入学者に適用) 本校では、以下の方針でカリキュラムを編成します。（全学科共通） (1) 低学年では、一般教養科目を中心に専門の知識や技能の基礎が身につく授業科目を配置し、高学年では、専門の知識や技能を段階的に高め、応用力が身につく授業科目を配置し、学年進行に従い専門科目が多くなるくさび形に配置します。【編成方針1】 (2) 国内外を問わず通用するコミュニケーション能力、実地的な社会貢献につながる課題発見能力および課題解決能力を育成するため、低学年から高学年までを通じて、実験・実習を系統的に配置し、それらの学習の総まとめとして最終学年に卒業研究を配置します。【編成方針2】 (3) 低学年から高学年までを通じて、シラバスにおいて「ディプロマ・ポリシー」で定められた能力との対応関係やその修得方法および成績評価方法が説明され、学生が学習の過程で自身の達成度を把握でき、自主的・継続的な学習を促すよう工夫された授業科目を配置します。【実施方針】 (4) 学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。【学修成果の評価】 さらに、学科ごとに「ディプロマ・ポリシー」に掲げた能力を育成するため、人材養成目的・教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。 (1) 低学年に基礎専門科目と、自然科学系基礎科目、人文社会科目を配置し、講義と演習を組み合わせることにより、基礎学習能力を育むための機会を提供します。

- (2) 専門科目を楔形に配置し、内容の積み重ね、つながりを意識した講義・実験により、専門応用力を育むための機会を提供します。
- (3) 5年間にわたって学生実験を配置し、グループで実験を行うことにより、協働的に課題に取り組む能力を育むための機会を提供します。
- (4) 高学年に環境、エネルギー、バイオ、新材料をキーワードにした講義と卒業研究を配置し、学習内容を体現できる実践力を養うことにより、社会に貢献できる能力を育むための機会を提供します。

(令和7年度以降入学者に適用)

本校では、全学科共通の以下の方針でカリキュラムを編成します。

- (a) 低学年では、一般教養科目を中心に専門の知識や技能の基礎が身につく授業科目を配置し、高学年では、専門の知識や技能を段階的に高め、応用力が身につく授業科目を配置し、学年進行に従い専門科目が多くなるくさび形に配置します。[編成方針1]
- (b) 国内外を問わず通用するコミュニケーション能力、実地的な社会貢献につながる課題発見能力および課題解決能力を育成するため、低学年から高学年までを通じて、実験・実習を系統的に配置し、それらの学習の総まとめとして最終学年に卒業研究を配置します。[編成方針2]
- (c) 低学年から高学年までを通じて、シラバスにおいて「ディプロマ・ポリシー」で定められた能力との対応関係やその修得方法および成績評価方法が説明され、学生が学習の過程で自身の達成度を把握でき、自主的・継続的な学習を促すよう工夫された授業科目を配置します。[実施方針]
- (d) 学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。[学修成果の評価]

さらに、学科ごとに「ディプロマ・ポリシー」に掲げた能力を育成するため、学習・教育目標および人材養成目的に沿って教育課程を編成します。

- (1) 幅広く人文社会・自然・情報についての科目を配置することにより、豊かな教養を育むための機会を提供します。[基礎力]
- (2) 国際社会で通用するコミュニケーション能力、実地的な社会貢献につながる課題発見能力および課題解決能力を育成するため、5年間にわたって学生実験を配置し、グループで実験を行うことにより、協働的に課題に取り組む能力を育むための機会を提供します。[協働力]
- (3) 高学年に環境、エネルギー、バイオ、新材料をキーワードにした講義と卒業研究を配置し、学習内容を体現できる実践力を養うことにより、社会に貢献できる能力を育むための機会を提供します。[社会貢献力]
- (4) 低学年に基礎専門科目と、自然科学系基礎科目、人文社会科目を配置し、講義と演習を組み合わせることにより、基礎学習能力を育むための機会を提供します。[専門基礎力]
- (5) 専門科目を楔形に配置し、内容の積み重ね、つながりを意識した講義・実験により、専門応用力を育むための機会を提供します。[専門応用力]

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

(概要)

本校は、幅広い工学的知識・技術を身につけ、豊かな人間性を備えた技術者の養成を行うことを使命としています。産業のグローバル化に対応して、国際的視野や国際コミュニケーション力を持ち、課題を発見し解決できる創造的技術者の育成を目指すため、以下に掲げる意欲および能力を有する人を受け入れます。

1. 求める学生像

【本科】

(1) 技術者や研究者になって、社会の役に立ちたい人 (2) 基礎的な学力を身に付けていて、自ら進んで学べる人 (3) 科学や技術に関心があり、仲間と協力して新しいものを創造したい人 (4) 他者への思いやりがあり、責任感を持って誠実に行動できる人 【4年次編入学】 (1) 技術者や理工系の研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人 (2) 工学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、自ら進んで学習できる人 (3) 科学技術の分野に関心を持ち、工夫や協働を通して新しいものを創造したい人 (4) 倫理観や協調性を持ち、多様な個性や価値観を尊重できる人 2. 入学者選抜の方針 推薦選抜「適性検査枠」 技術者や研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人で、総合的な基礎学力があり、とくに数学・理科が得意な人の入学を期待し、調査書、推薦書、適性検査、面接の総合評価によって選抜します。 推薦選抜「女性エンジニアリーダー養成枠」 技術者や研究者になるという強い意志を持ち、率先して社会の発展に貢献したい人で、総合的で高い基礎学力がある人の入学を期待し、調査書、推薦書、面接の総合評価によって選抜します。 学力選抜 技術者や研究者として社会で活躍したい人で、中学の学習内容を正しく理解していて、実技科目にもしっかり取り組んだ人の入学を期待し、学力検査、調査書の総合評価によって選抜します。 編入学試験 技術者や理工系の研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人で、工学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、自ら進んで学習できる人の入学を期待し、学力検査、調査書、面接の総合評価によって選抜します。

学部等名 システム創成工学専攻
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/ （概要） 専攻科は、高等専門学校本科における教育の基礎の上に、精深な程度において工学の高度な専門的知識と技術を教授するとともに、その研究を指導することにより、広く産業及び学術の発展に寄与することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/ （概要） 専攻科の学習・教育目標を達成するために編成された教育課程が定める授業科目を履修し、所定の単位数を修得し、専攻科を修了したものは、以下の能力・知識・態度が身についているものとする。 (A) 幅広い視野と教養 ・人と社会そして地球環境に関する幅広い知識と教養を備え、その知識を分野横断的・地球的視野から捉えることができる。 (B) 技術者、科学者としての高度な倫理観 ・科学技術が人間や社会、地球環境に与える影響の大きさを理解し、技術者・科学者として高度な倫理観を備えている。 (C) 工学の基礎

・数学（微分積分、線形代数、確率統計、数値解析）と物理の知識や思考力を身につけ、それを工学的な諸問題の解決に適用することができる。 (D) 研究成果の発信力 ・技術者に必要な論理的な能力を身につけ、それを使って技術論文を書くことや、研究成果を発表することができる。 (E) 技術者に必要な英語力 ・英語で書かれた文献を読解し、情報収集できる。 ・英語を用いて技術報告書を書く基礎能力を有する。 ・英語を用いて口頭による発表および討論が行える基礎能力を有する。 (F) 専門分野の知識 ・機械工学、電気工学、電子制御工学、情報工学のいずれかの専門分野に精通し、その分野の技術動向を把握することができる。 (G) システムの設計力 ・システムを構築するための基盤となる技術（設計・計測・制御など）の基礎を身につけ、それらを活用してシステム設計ができる。 ・専門分野の知識を活用して、実験を計画・遂行することができるとともに、得られたデータを正確に解析し、考察することができる。 (H) 問題解決能力 ・システムの安全性、品質保証、環境負荷、経済性など実務上の問題を理解することができる。 ・与えられた課題について、解決するためのデザイン能力を身につけることができる。 ・チームワークにより、定められた条件のもとで、課題を完成させることができる。 ・自主的・継続的に問題解決に向けて学習することができる。	教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/
(概要) (1) 工学の基礎としての、数学および自然科学に関する知識とそれらを応用する科目を配置します。 (2) 各専攻の専門分野において必要とされる専門的知識と基礎技術およびそれらを応用し新しい技術に対応できる能力を身につける科目を配置します。 (3) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける科目を配置します。 (4) 自主的、継続的に学習する能力を身につける科目を配置します。 (5) 地域と世界に対する理解を深め、地域創生や人類の発展に貢献する意欲および技術者としての倫理観を涵養する科目を配置します。 (6) 新規システムを開発する際に要求される、専門分野が異なるチームで仕事をし、与えられた制約の下で計画的に仕事を進める能力や、種々の技術を組み合わせても技術的な問題を解決する力を身につける科目を配置します。	入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/
(概要) (1) 豊かな人間性を有する技術者になりたい人 （求める要素：人間性） (2) 自らの専門分野を生かし、さらに応用する力を育みたい人 （求める要素：知識・技能，思考力・判断力・表現力） (3) 技術を通して国際社会や地域に貢献したい人 （求める要素：主体性・協働性・多様性） (4) 創造性を高め、新しいシステムをつくり出したい人 （求める要素：知識・技能，思考力・判断力・表現力）	
学部等名 物質創成工学専攻	

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/
（概要） 専攻科は、高等専門学校本科における教育の基礎の上に、精深な程度において工学の高度な専門的知識と技術を教授するとともに、その研究を指導することにより、広く産業及び学術の発展に寄与することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/
（概要） 専攻科の学習・教育目標を達成するために編成された教育課程が定める授業科目を履修し、所定の単位数を修得し、専攻科を修了したものは、以下の能力・知識・態度が身につけているものとする。 (A) 幅広い視野と教養 ・人と社会そして地球環境に関する幅広い知識と教養を備え、その知識を分野横断的・地球的視野から捉えることができる。 (B) 技術者、科学者としての高度な倫理観 ・科学技術が人間や社会、地球環境に与える影響の大きさを理解し、技術者・科学者として高度な倫理観を備えている。 (C) 工学の基礎 ・数学（微分積分、線形代数、確率統計、数値解析）と物理の知識や思考力を身につけ、それを工学的な諸問題の解決に適用することができる。 (D) 研究成果の発信力 ・技術者に必要な論理的な能力を身につけ、それを使って技術論文を書くことや、研究成果を発表することができる。 (E) 技術者に必要な英語力 ・英語で書かれた文献を読解し、情報収集できる。 ・英語を用いて技術報告書を書く基礎能力を有する。 ・英語を用いて口頭による発表および討論が行える基礎能力を有する。 (F) 専門分野の知識 ・環境、エネルギー、バイオ、新材料およびこれらを融合したプロセスに関する専門分野に精通し、その分野の技術・研究動向を把握することができる。 (G) 物質・材料の創出力 ・専門知識を基軸とした幅広い視野から問題解決へ取り組める能力を身に付けている。 ・人類社会の持続的発展を実現するために、基礎研究により培った技術・研究を応用し、新しい科学技術を創出することができる。 (H) 優れた技術・研究能力 ・専門知識を生かして地球環境と調和した豊かな社会の構築に貢献し得る優れた技術・研究能力を身に付けている。 ・多様化する国際社会で主体的に活躍できる技術・研究能力を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/
（概要） (1) 工学の基礎としての、数学および自然科学に関する知識とそれらを応用する科目を配置します。 (2) 各専攻の専門分野において必要とされる専門的知識と基礎技術およびそれらを応用し新しい技術に対応できる能力を身につける科目を配置します。 (3) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける科目を配置します。

(4) 自主的、継続的に学習する能力を身につける科目を配置します。 (5) 地域と世界に対する理解を深め、地域創生や人類の発展に貢献する意欲および技術者としての倫理観を涵養する科目を配置します。 (6) 環境に優しい新材料やエネルギーシステム、あるいはバイオテクノロジーなど、地球環境と調和した社会の持続的発展を実現するために必要な新しい科学技術を創出する力と化学研究者・技術者としての確かなリテラシーおよび国際競争力を身につける科目を配置します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/
（概要） (1) 豊かな人間性を有する技術者になりたい人 （求める要素：人間性） (2) 自らの専門分野を生かし、さらに応用する力を育みたい人 （求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力） (3) 技術を通して国際社会や地域に貢献したい人 （求める要素：主体性・協働性・多様性） (4) 環境、エネルギー、バイオ、新材料およびこれらを融合したプロセスに関してその課題発見と解決に貢献したい人 （求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力）

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページ https://www.nara-k.ac.jp/guide/history/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	6 人	—					6 人
一般教科	—	4 人	14 人	2 人	5 人	0 人	25 人
機械工学科	—	3 人	2 人	0 人	1 人	0 人	6 人
電気工学科	—	4 人	4 人	0 人	1 人	0 人	9 人
電子制御工学科	—	3 人	4 人	0 人	1 人	0 人	8 人
情報工学科	—	5 人	2 人	0 人	2 人	0 人	9 人
物質化学工学科	—	4 人	4 人	0 人	2 人	0 人	10 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		20 人					20 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：公表方法：刊行物及びホームページ					
		「学校概要」					
		https://www.nara-k.ac.jp/guide/publication/publication.html					
		「研究シーズ集」 https://www.nara-k.ac.jp/education/uploads/SEEDS_HP.pdf					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

[illegible]

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	39 人 (100%)	16 人 (41.0%)	23 人 (59.0%)	0 人 (0%)
電気工学科	31 人 (100%)	9 人 (29.0%)	18 人 (58.1%)	4 人 (12.9%)
電子制御工学科	36 人 (100%)	10 人 (27.7%)	24 人 (66.7%)	2 人 (5.6%)
情報工学科	42 人 (100%)	14 人 (33.4%)	25 人 (59.5%)	3 人 (7.1%)
物質化学工学科	32 人 (100%)	18 人 (56.3%)	13 人 (40.6%)	1 人 (3.1%)
システム創成工学専攻	30 人 (100%)	20 人 (66.7%)	10 人 (33.3%)	0 人 (0%)
物質創成工学専攻	7 人 (100%)	4 人 (57.1%)	3 人 (42.9%)	0 人 (0%)
合計	217 人 (100%)	91 人 (41.9%)	116 人 (53.5%)	10 人 (4.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) (本科・進学先) 長岡技術科学大学, 豊橋技術科学大学, 東北大学, 大阪大学, 筑波大学, 東京科学大学, 神戸大学, 岡山大学, 広島大学, 熊本大学, 北見工業大学, 東京農工大学, 電気通信大学, 三重大学, 京都工芸繊維大学, 奈良女子大学, 島根大学, 山口大学, 徳島大学, 大阪公立大学, 兵庫県立大学, 同志社大学, 奈良工業高等専門学校専攻科, 和歌山工業高等専門学校専攻科 (本科・就職先) アークレイ, アイ・エス・ビー, アイコム, アイテック阪急阪神, 旭化成, アサヒビール, 朝日ビルディング, 味の素, アステック, アステラス製薬, e B A S E, インフォコムテクノロジーズ, ANA エンジンテクニクス, エクシオ・デジタルソリューションズ, エスアイエス・テクノサービス, エスユーエス, エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア, エヌ・ティ・ティエムイー, NTTPC コミュニケーションズ, NTT データ MHI システムズ, NTT 西日本, エネゲート, エムジー, 大阪ガスネットワーク, 大阪シーリング印刷, 奥野製薬工業, オプテックス・エフエー, 川崎重工業, 関西設計, 関西電力, キヤノンマーケティングジャパン, クボタ, グリーホールディングス, 京阪電気鉄道, コスモ石油, 小松製作所, サイレックス・テクノロジー, サントリー, サントリーブプロダクツ, サントリーホールディングス, ジェイテック, J-POWER ハイテック, JERA, 芝浦機械, シャープ, ジャパンマリニュナイテッド, 新明和工業, SCREEN セミコンダクターソリューションズ, スズキ, 第一三共, Daigas エナジー, Daigas ガスアンドパワーソリューション, ダイキン工業, ダイダン, 大鉄工業, 大同化学, 大日本精機, 大陽日酸 ATI, 太陽ファルマテック, DMG 森精機, TDC ソフト, テルモ, 東海旅客鉄道, 東京ガス, TOA, トーテックアメニティ, 独立行政法人 水資源機構, 南都銀行, ニコン, 西日本高速道路ファシリティーズ, 日本ニューロン, 任天堂, パーソルクロステクノロジー, パナソニック インダストリー, ヒラノテクシード, FIXER, 富士フイルム, 本田技研工業, 三菱重工業, 三菱電機エンジニアリング, 三菱電機電子通信システム製作所, 村田機械, モリタ製作所, 森永乳業, UHA 味覚糖, ラック, 理研ビタミン, デンソー, 叡山電鉄, マツダ, TMEIC, ウシオ電機, カプコン, 西日本旅客鉄道 (JR 西日本), 日東電工, カネカ, 日本液炭 (専攻科・進学先) 長岡技術科学大学大学院, 東北大学大学院, 大阪大学大学院, 岡山大学大学院, 北陸先端科学技術大学院大学, 京都工芸繊維大学大学院, 奈良先端科学技術大学院大学 (専攻科・就職先) ウシオ電機, 叡山電鉄, カネカ, カプコン, TMEIC, TDC ソフト, DMG 森精機, デンソー, マツダ, ラック, 西日本旅客鉄道 (JR 西日本), 日東電工, 日本液炭 (備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 学則別表の教育課程表により履修科目全体を呈示し、web シラバス上では、評価、到達目標のほか、具体的な「授業の進め方と授業内容・方法」を記載している。 また、シラバスには、年間を通して授業計画を週毎に授業内容・方法を記入している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 本科においては、学則第 12 条及び昭和 46 年度に制定された『学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する規則』を公表、『学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する申合せ事項』を制定し、順次状況にあった改訂を加えている。 本科においては、次に該当する者は、原則として進級又は卒業を認めない。 (1) 不合格の科目がある者 (2) 学年成績の総平均点が 60 点未満の者 (3) 欠席日数が年間授業日数の 3 分の 1 を超える者 (4) 特別教育活動の履習状況が著しく悪い者 ただし、不合格科目の全てが不可 (A) (59～40 点) であり、かつ、その累積が 5 科目 10 単位以内である場合、本科第 4 学年にあっては進級を認め、第 5 学年にあっては卒業を追認定するための再試験の実施を認めることができる。 専攻科においては、学則第 37、38 条及び『奈良工業高等専門学校専攻科履修規程』を公表し、修了認定の条件を定めている。 専攻科に 2 年以上在学し所定の授業科目を履修し、62 単位以上を修得するものとしており、教養専門基礎科目修得単位数 計 20 単位以上、専門科目修得単位数 計 42 単位以上としている。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位	有・無	単位
	電気工学科	167 単位	有・無	単位
	電子制御工学科	167 単位	有・無	単位
	情報工学科	167 単位	有・無	単位
	物質化学工学科	167 単位	有・無	単位
	システム創成工学 専攻	62 単位	有・無	単位
	物質創成工学専攻	62 単位	有・無	単位

G P A の活用状況（任意記載事項）	公表方法：
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）	公表方法：

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.nara-k.ac.jp/guide/R7_gakkougaiyo_facilities.pdf

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	機械工学科	234,600 円	84,600 円	94,250 円 ～62,250 円	その他の内訳 スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円 行事等積立金（1～3 年）12,000 円 （4～5 年）10,000 円 学生会費 3,400 円（半期） 寄宿料（寮生のみ）4,800 円（半期） 寮生会費 2,500 円（半期） 教科書代 40,000～70,000 円
	電気工学科				
	電子制御工学科				
	情報工学科				
	物質化学工学科				
	システム創成 工学専攻			21,550 円	スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円 学外研修等積立金 10,000 円 教科書代 10,000 円程度
	物質創成工学専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 学級担任制をとり、学級担任の他に 1 年及び 2 年には学年主任を置き、随時、修学に関する相談が可能な体制としている。また、図書館、保健室、学生支援センター（学生相談）を設置し、教員全員によるオフィスアワー、自学自習のための施設の開放等、学生の学習支援に関する企画・検討ができる体制を整えている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 本校の進路指導は、年度当初の進路対策協議会で基本方針を協議し、各学科間の連絡調整を図りながら、原則として学科の主任と進路対策教員を中心として行われている。全学的には進路ガイダンス、保護者懇談会等を複数回開催し、当該学級担任と調整、相談しながら、随時、進路指導が可能な体制をとっている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 保健室、学生支援センター（学生相談）を置き、学生支援センターには、センター長、学生相談担当副センター長、人権教育推進・障害学生支援担当副センター長、特別相談員（本校 OB 教員）各学科から選出された相談員、スクールソーシャルワーカー 1 名、心理カウンセラー 3 名、看護師 3 名が配置され、連携して学生の心身の健康相談に対応する体制を整えている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.nara-k.ac.jp/guide/open/education_information.html
備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	G129110109348
学校名（〇〇大学 等）	奈良工業高等専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		123人（92）人	122人（ 92）人	127(93)人
内 訳	第Ⅰ区分	22人	25人	
	（うち多子世帯）	（ 一人）	（ 一人）	
	第Ⅱ区分	18人	一人	
	（うち多子世帯）	（ 一人）	（ 一人）	
	第Ⅲ区分	一人	一人	
	（うち多子世帯）	（ 一人）	（ 一人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	17人	17人	
	区分外（多子世帯）	61人	62人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0）人
合計（年間）				127(93)人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	一人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	0人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間		前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	20人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	20人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。